



23日 (月) 日直

$7\text{cm} \times 25000 = 175000\text{cm}$   
 $1750\text{m}$   
 $1.75\text{km}$   
 $4\text{cm} = \dots$

線路1本  
以上

名門私学探訪 ⑱

# 広島女学院

スーパーグローバルハイスクール  
として踏み出す一歩に注目!

1886 (明治19) 年、砂本貞吉によって創設された  
私塾・広島女学会は、聖書と英語を教えるものだった。  
創立から128年の時を経た今もなお、創設者の理念は  
息つき、さらに新たな歩みが始まっている。

取材・文/橘雅康 撮影/岩井進





1	2
3	

### 教師と生徒の関わりの中にある大切なもの

1. 天気の良い日は中庭でお弁当を食べる生徒たち。校母ゲーンズ先生の銅像が見守っているよう。2. 中3「美術」では、田畑先生と生徒たちとのつながりに温かいものを感じた。3. 国語科の中生は同校の出身。世代を超えて生徒たちと共感できるものがあるのは素晴らしい

### 次世代に何をつなぐか、常にミッションを考える 広島女学院

「本校は今年で、創立から128年を迎えました。今年度から文部科学省のスーパードイバー・ハイスクール(SGH)に指定されましたが、キリスト教的なものの見方を通して、これまで本校で培ってきた『平和教育』『人権教育』『国際教育』の三つを一本の大きな柱、『PS(ピース・スタディーズ)』という形で統合し、さらに取り組んでいきたいと考えています。物事を一方的な立場からだけ見るのではなく、さまざまな他者の視点でもとらえることができる、しなやかな女性リーダーを育みたいと思っています。」

そう語るのは、校長として5年目となる星野晴夫先生。長年、教員として同校とともに歩まれてきた先生。穏やかな語り口の中に強い信念を感じる。キリスト教主義をバックボーンとした独自の教育理念に裏付けされた同校だが、ここ数年の進学校としての躍進も見逃せない。

関西エリアで見られるような大きなコース編成はないものの、高1からの科目自由選択制度で大きく文系と理系に分かれ、高2からは「国公立文系難関」「国公立文系」「国公立外語系」と、「私立文系・芸術系」「国公立理系難関」「国公立理系」に対応した科目選択ができる。多彩な進路コースを持つ同校の生徒たちは国内だけでなく、



同校の展望を語る校長・星野晴夫先生(左)と高校教頭・渡辺信一先生(右)

海外の大学へも進学している。

日々の授業の中で学びの本質に迫り、放課後の特別セミナーなどで学習サポートも徹底して行う同校。基礎力や応用力を強化するために中学と高校をつなぐ時期に「ハイレベルセミナー」も行われる。そうした手厚い指導の成果は、2014年の大学合格者(※現役生のみ)を見てもはつきりとうかがえる。京都大学2名、大阪大学7名、神戸大学1名、地元の名門・広島大学に15名、県立広島大12名、広島市立大4名という実績を残しており、2009名の卒業生のうち国公立大学には64名が合格している。

長年、進路指導部を担当し、現在は高校教頭を務める渡辺信一先生は、「それぞれの生徒にあった進路があるはずで、教師側もできるだけサポートしたいと強く思っています。今回のSGHの指定は本校の生徒たちにとって大きなプラスになると思います。決して志向が内向きにならぬよう、常にグローバルな視点で主体的にチャレンジできる機会を増やしていきたいですね」と語る。

**SGH** 広島県内唯一となるスーパーグローバル  
ハイスクール (SGH) 指定校に！

2014年から文部科学省がスタートさせた新たな取り組みは、将来、国際社会の中で幅広く活躍できる人材を育成することだった。ビジネスの場はもちろん、地球サイズというグローバルな視点で物事をとらえ、その中で課題を見つけ、解決に導くリーダーの育成でもある。こうすれば、まさに広島女学院の創設から現在に至る経緯とぴったり重なりあう。世界に通じる語学教育と世界に発信する平和へのアピールは、同校の存在意義に関わる部分でもある。過去から未来へと、心でつなぐネットワークは同校の真骨頂でもある。



中平先生が行う中2「生物」の授業。オオカナダモに、BTB溶液を用いて二酸化炭素が光合成に使われていることを確認する。身近な生活の話を出しながら、うまく生徒たちの関心をひきつけられていた



高2「聖書」は「聖書袋を作って新入生に贈ること」についてディベートを(写真左・下)。「これこそ伝統」「先輩としての思いがここに詰まっている」「迎えられたと実感できるのでは」という賛成派。反対派には「義務感」「勉強時間がなくなる」などの声も

**広島女学院がSGHとして育む人材とは**



「本校のめざすグローバル・リーダー像というのは『核の惨禍のない世界を創り出すしなやかな女性』なんです。そのためには、自らがしっかりとした平和観を持ち、他者とつながるコミュニケーション力も必要ですし、行動力も求められます。英語科や社会科だけでなく、あらゆる教科教育との連携の中で、育てていきたいと考えています」そう語るのは社会科でSGH担当の安宅弘展先生。



女学院関係者の被爆体験など数多くの手記が集められた『夏雲』は平和学習に欠かすことのできない教材。英訳された『Summer Cloud』も英語の授業で使用され、同校出身の絵本作家・森本順子さんの作品はオーストラリアの学校でも副教材になっているという。写真右はアメリカ軍によって撮影された原爆投下前と投下後の学院付近の様子



## 図書館には、新たな世界を広げてくれる扉がいっぱい！

図書委員たちお薦めの本として、自作の帯やポップを作成して展示するなど、とても利用しやすい雰囲気になっている同校の図書館。入口には、女学院の出身者の紹介コーナーもあった。作家・堀辰雄の婚約者で『風立ちぬ』に登場する里見菜穂子のモデルになった矢野綾子さんや、『ある奴隷少女に起こった出来事』（ハリエット・アン・ジェイコブス著）を訳した堀越ゆきさん、さらには女優になる前に同校の音楽教師をしていたという杉村春子さんなどが紹介されていて、遠くに思える文学や芸能の世界がとて身近に感じることができる。将来の道は何をきっかけに決まるかはわからないが、同校の図書館には様々なヒントがあふれている。

書架の一角には、女学院関係者による書物のコーナーもある。創設からのミッションリーに関する著書や、メディアでもなじみのある卒業生の名もある。歴史のある私学からは、多くの卒業生が各界で活躍している



なにやら緊張感が漂う図書館。中1「英語」は、先生の前で一人ずつスピーキングのテストを行う。その間、他のみんなはプリント教材で単語をしっかりと覚える

屋休みの図書館は、本好きの生徒たちがいっぱい集まってくる。同校では司書のスタッフや図書委員たちで作る読書案内なども充実、蔵書内容も幅広い



有名絵画を水彩画で自分なりにアレンジするのは中2「美術」



吉田先生の中2「国語」では、教材に『論理エンジン』を使用し、多彩な国語的表現力を身につける。この日は段落の要点をとらえるのが課題

## 豊かな感性を育む、同校の多彩なアクティビティー

音楽では合唱や合奏が行われていたが、時にはグループで自主的に練習を行うなど、常に他者との関わりを通じて何かを学ばせようとする姿勢が感じられたのは良かった。毎年、「讀美歌コンクール」が行われるのも同校らしいところだろう（写真右下）。芸術科目はもちろん、国語の授業でも言葉の表現力を広げる工夫が随所に見られた。



中2「音楽」では長谷川先生がリコーダーを指導中。名曲「コンドルは飛んでいく」を見事な指使いで演奏する生徒たち



**思い思いに好きなことに取り組む  
昼休みと放課後**

中学生は、圧倒的にお弁当を持参する生徒が多いようだ。教室だけでなく、廊下に設けられたイスや中庭などで楽しいランチタイムを過ごす。食堂ではテイクアウトのメニューもあるのがうれしい。同校はクラブ活動がとても活発で、グラウンドでは多くの運動系クラブがうまくスペースを分けながら効率よく練習をしていた。



茶室で作法を練習する茶道部（写真下）は、週1回の活動。室内に漂う凛とした空気がとても心地よい



食堂といえば、何といっても五目中華(270円)。同校の変わらぬ人気メニューの一つだ。麺類や丼の種類も多い。カレーはライスのほか、うどん・スパゲティーもOK。ハヤシライスもある。手作りパンや弁当なども販売されている



体育館で華麗な技を見せてくれたのは新体操部のみんな。基礎的な反復練習もおろそかにしないあたりはさすが



築46年という高校校舎が新しくなったのが2010年。地上4階建て、中央には吹き抜けのあるライトコート（光庭）があり、2階のウッドデッキテラスなど、かなりオープンな印象となっている。竣工から3年、生徒たちが使い始めてしっくりとなじんだような感がある。設計はレーモンド建築設計事務所。世界的な建築家、フランク・ロイド・ライトについて来日し、以後、日本国内で多くのキリスト教関連の建築に関わったアントニン・レーモンド（1888〜1976）の意志を受けづく設計事務所である。学びへの配慮と安全性、けっして主張しすぎないデザインは、まさにレーモンドの建築哲学そのもののように思える。

プロテスタント系ミッションスクールには礼拝があり、ゲインズホールで行われる時には、司会や奏楽も生徒が行うことが多い。讚美歌や聖書朗読のほか、生徒が「感話」として自らの思いを発表することもあり、礼拝の時間が自らの生き方を考える場となっている。平和教育を軸として、全国の私学とネットワークを持つのも同校らしい特長で、兵庫県の啓明学院や甲南女子、名古屋の金城学院、神奈川県のフェリス女学院なども交流がある。こうしたつながりの中で得られるものが多いと、生徒たち自身が語ってくれた。

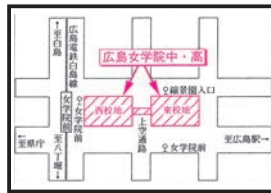
**祈りを通じて自己を見つめ  
他者との関係を考える  
広島女学院の学校生活**

**広島女学院 DATA**

<http://www.hjs.ed.jp>

- 〒730-0014 広島市中区上幟町11-32
- TEL 082-228-4131

2015年の入試日は1月21日(水)。募集定員は200名。国語と算数はそれぞれ50分・120点で、理科・社会は合わせて45分で実施(各50点)。グループ面接も行われるようになる。



- 交通/JRR山陽本線・芸備線「広島駅」、徒歩12分。「広島バスセンター」下車、徒歩15分。

